

農業における労働環境改善の ための要因分析

統計データ分析支援チーム
労働環境チーム



SAFF
データの力で。
農林水産統計



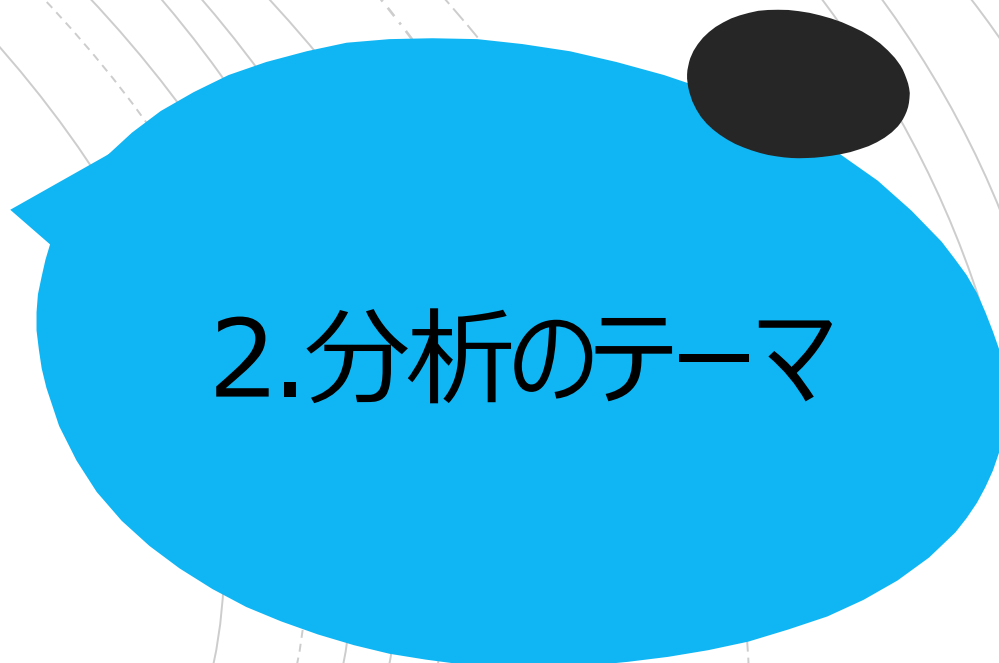
目次

1. 分析の目的
2. 分析のテーマ
3. 使用するデータと分析の方法
4. 分析結果

本分析は、令和5年度「農業労働環境の改善に関する意識・意向調査」(以下、「意識・意向調査」とする。)を起点として、労働環境の改善に向けた課題や取組に関する考え方等を分析し、労働環境整備に向けた施策検討を行うための知見を得ることを目的とする。

1.分析の目的

- (1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析
(販売金額別・営農類型別)
- (2) 経営体の労働環境改善に関する分析
(販売金額別)
- (3) 労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握
(営農類型別)



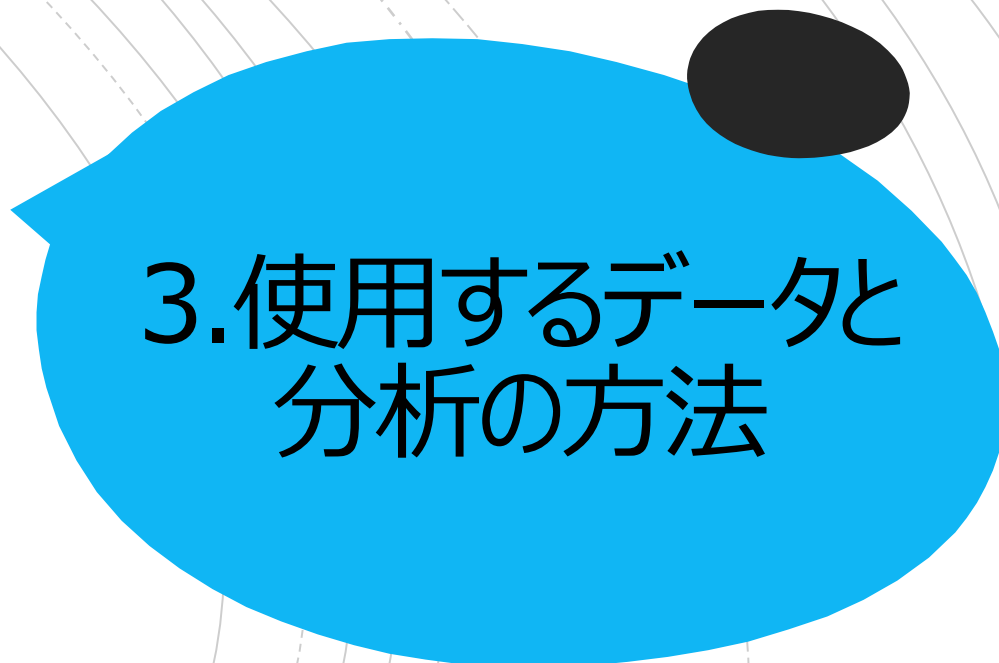
2. 分析のテーマ

(1) 使用するデータ

令和5年度 農業労働環境の改善に関する
意識・意向調査

(2) 分析の方法

クロス集計



3.使用するデータと 分析の方法

(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (販売金額別・営農類型別)

販売規模別、営農類型別に労働環境や労働時間等に対する被雇用者の満足度を把握する。

※ データは被雇用者のデータを利用し、満足度は各項目の「非常に満足である」「やや満足である」の割合で評価。
ただし、傾向を見る上で、回答数50人未満の区間(灰色部分)は評価から除外。

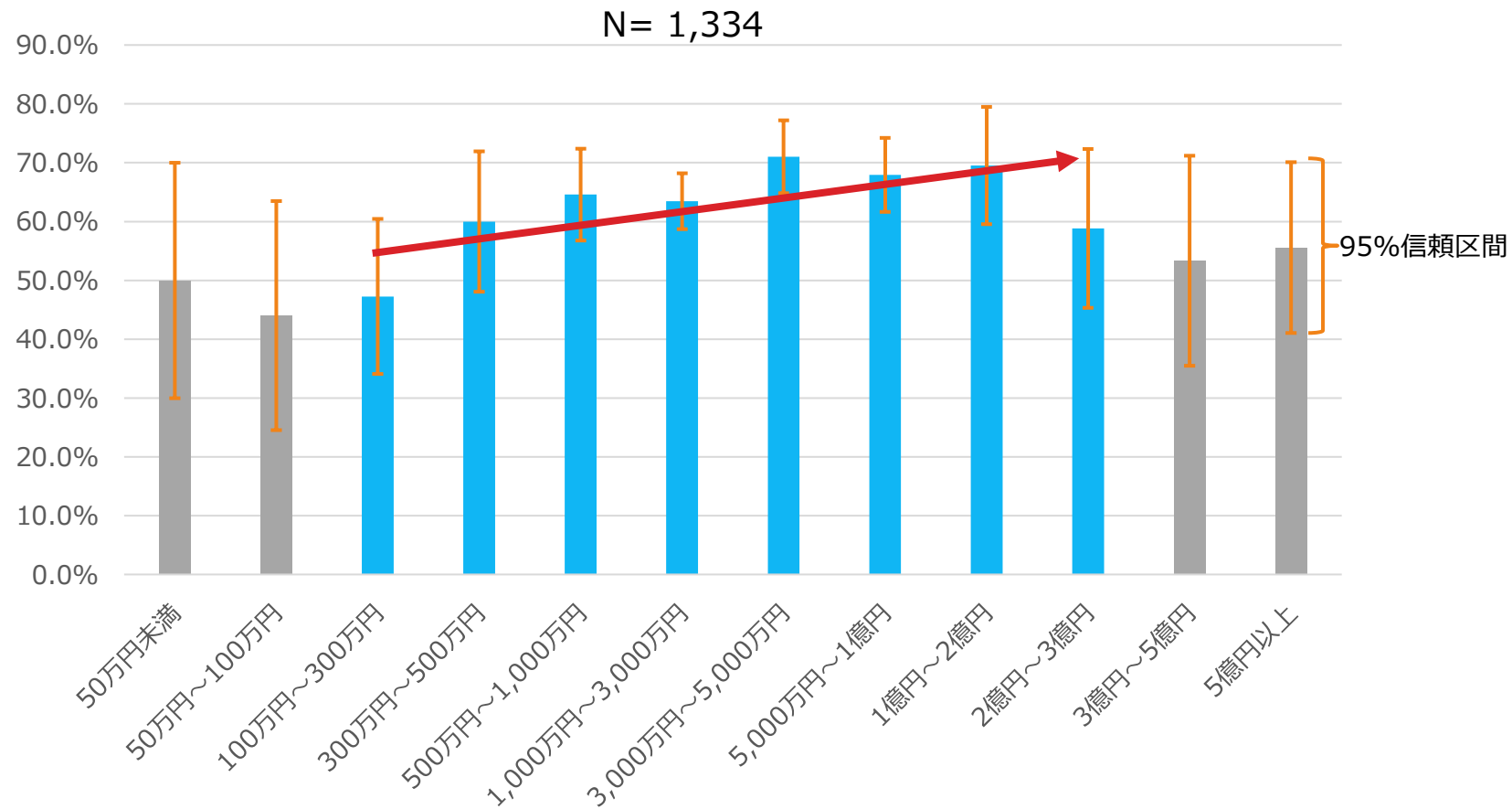
4.分析結果

(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (販売金額別)

・ 1 日の実労働時間の長さの満足度

農繁期の 1 日の実労働時間の長さの満足度を販売金額別に比較すると、販売金額が上がるにつれて満足度も上がる傾向である。

販売金額別の 1 日の実労働時間の長さの満足度

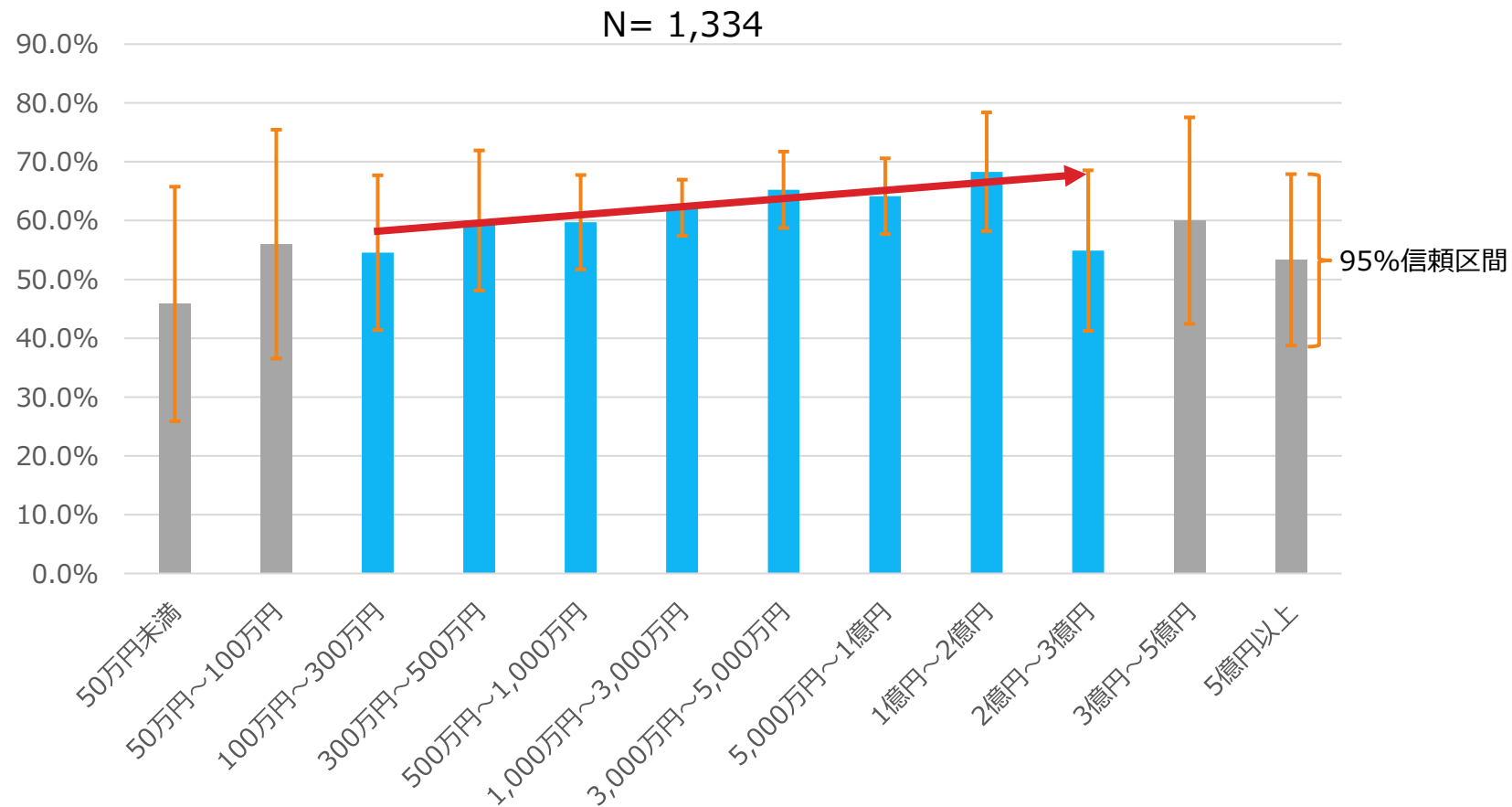


(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (販売金額別)

・ 1 週間の実労働時間の長さの満足度

農繁期の 1 週間の実労働時間の長さの満足度を販売金額別に比較すると、販売金額が上がるにつれて満足度も上がる傾向である。

販売金額別の 1 週間の実労働時間の長さの満足度

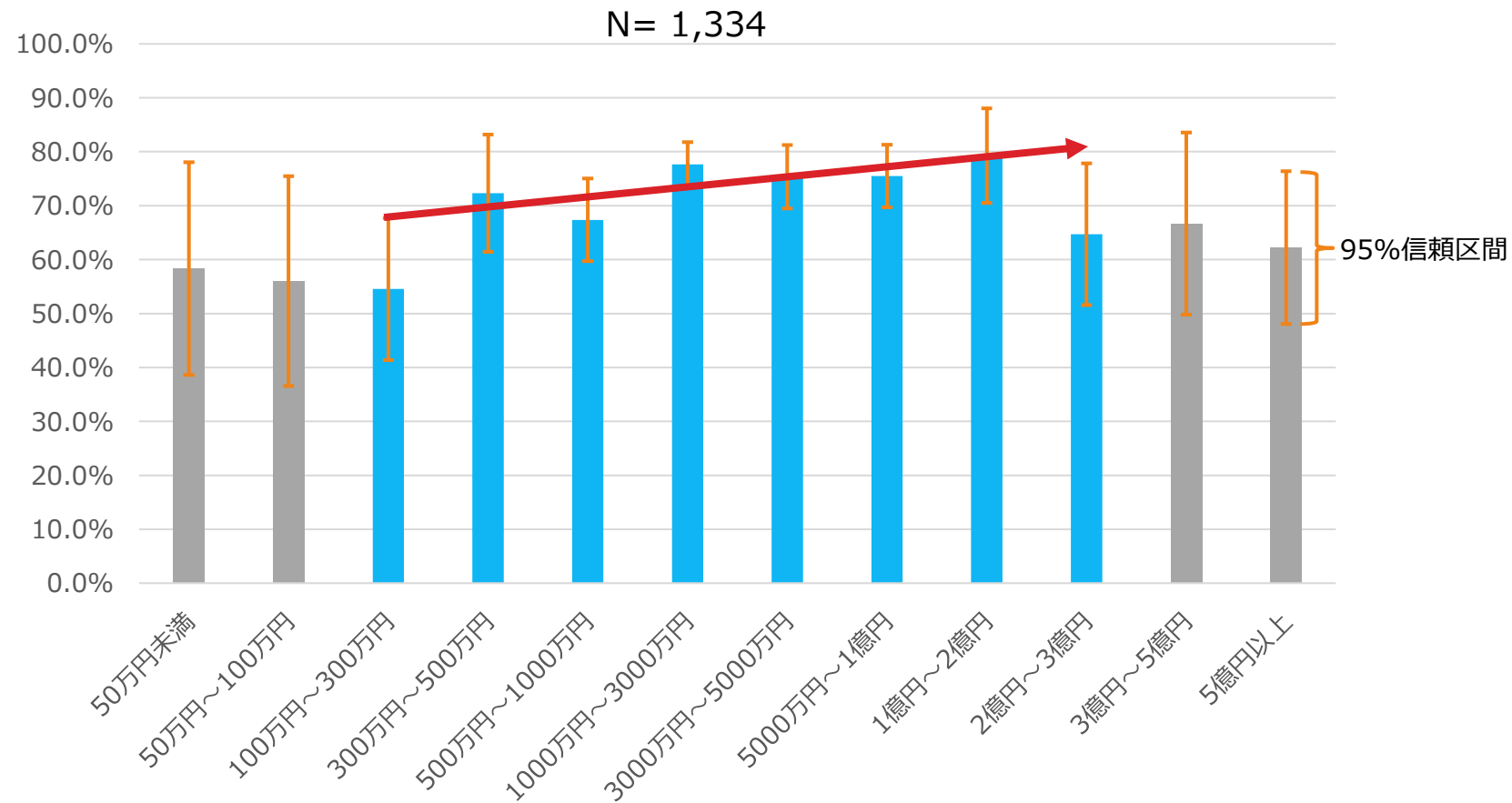


(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (販売金額別)

・ 1日の休憩時間の長さの満足度

農繁期の1日の休憩時間の長さの満足度を販売金額別に比較すると、販売金額が上がるにつれて満足度も上がる傾向である。

販売金額別の1日の休憩時間の長さの満足度

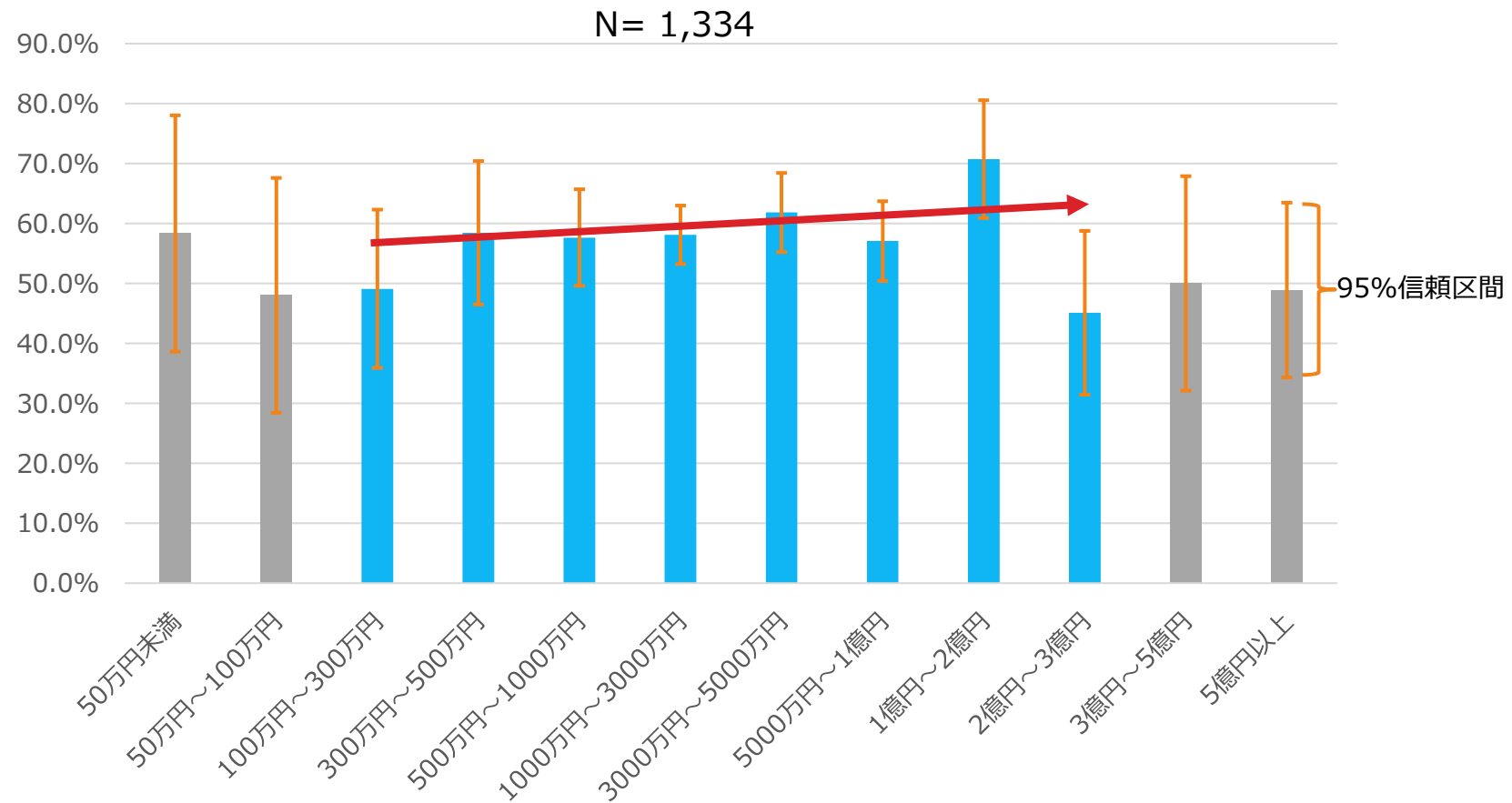


(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (販売金額別)

・ 1 か月あたりの休日数の満足度

農繁期の1か月あたりの休日数の満足度を販売金額別に比較すると、販売金額が上がるにつれて満足度は僅かながら上がる傾向である。

販売金額別の1か月あたりの休日数の満足度

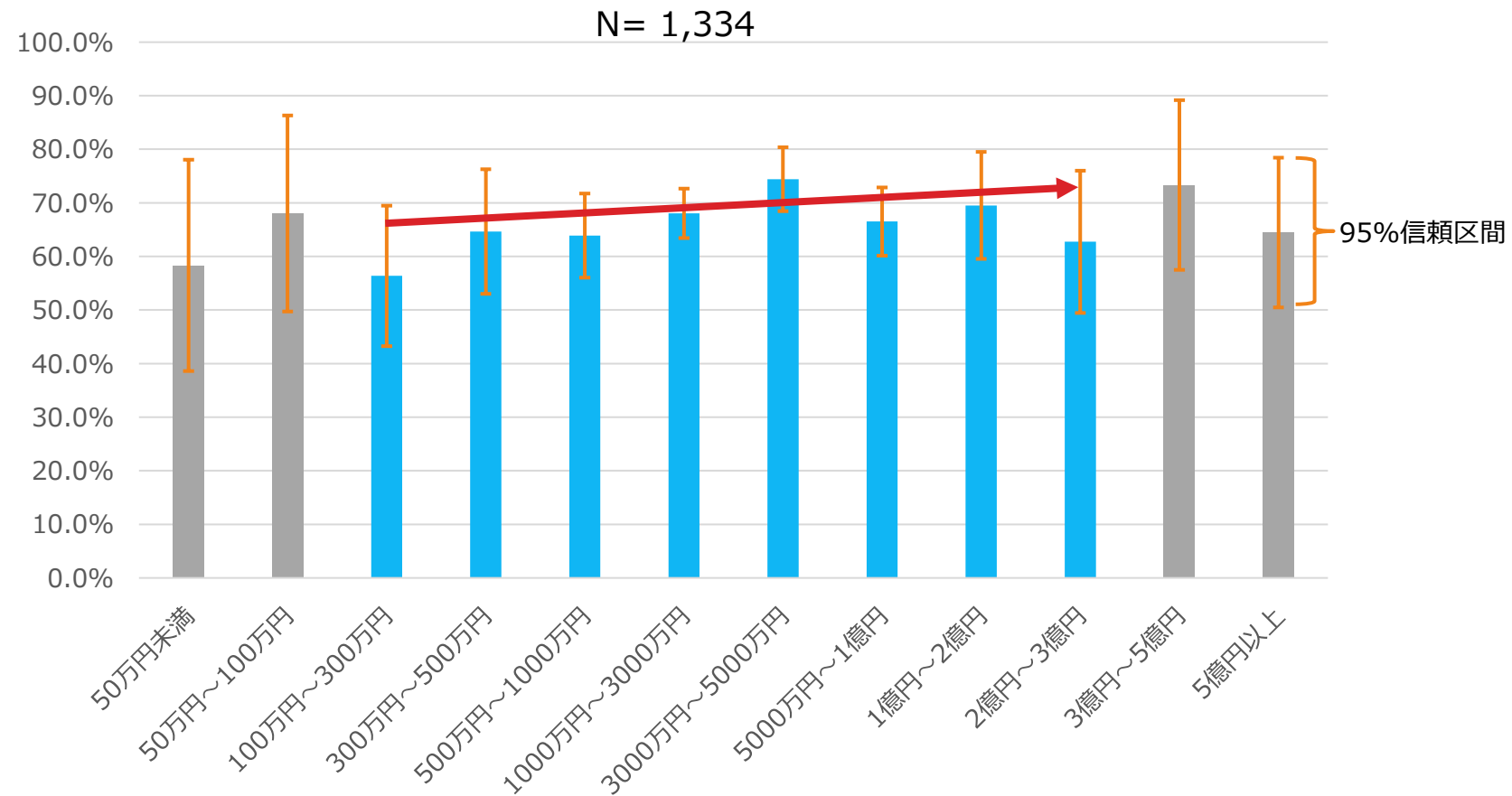


(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (販売金額別)

・ 1年間の働き方の満足度

1年間の働き方の満足度を販売金額別に比較すると、販売金額が上がるにつれて満足度は僅かながら上がる傾向である。

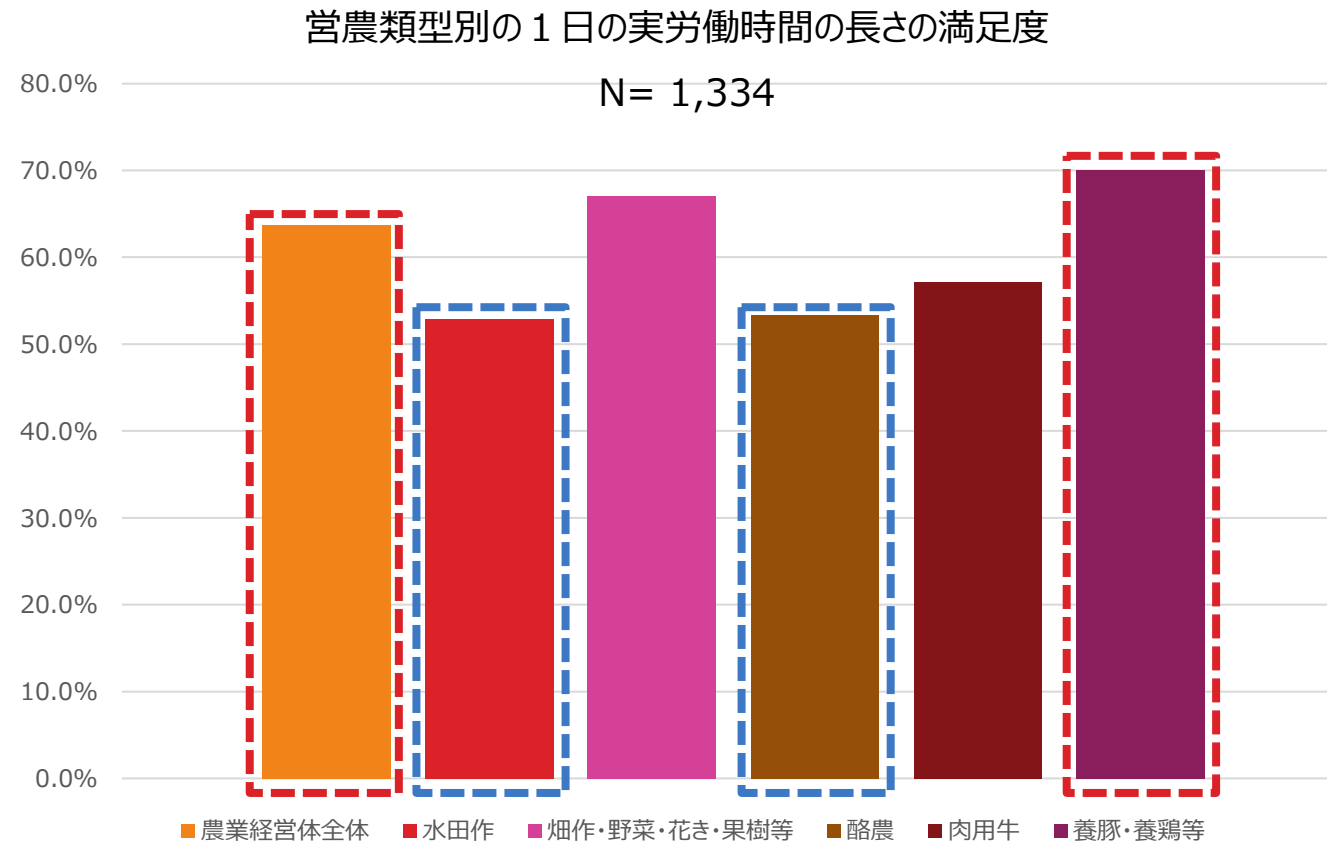
販売金額別の1年間の働き方の満足度



(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析（営農類型別）

・ 1 日の実労働時間の長さの満足度

農繁期の 1 日の実労働時間の長さの満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体でみると満足度が6割を超えていた。養豚・養鶏等は他と比較して満足度が高くなっている一方、水田作、酪農は満足度が低くなっており、この差は統計的に有意(※)であった。

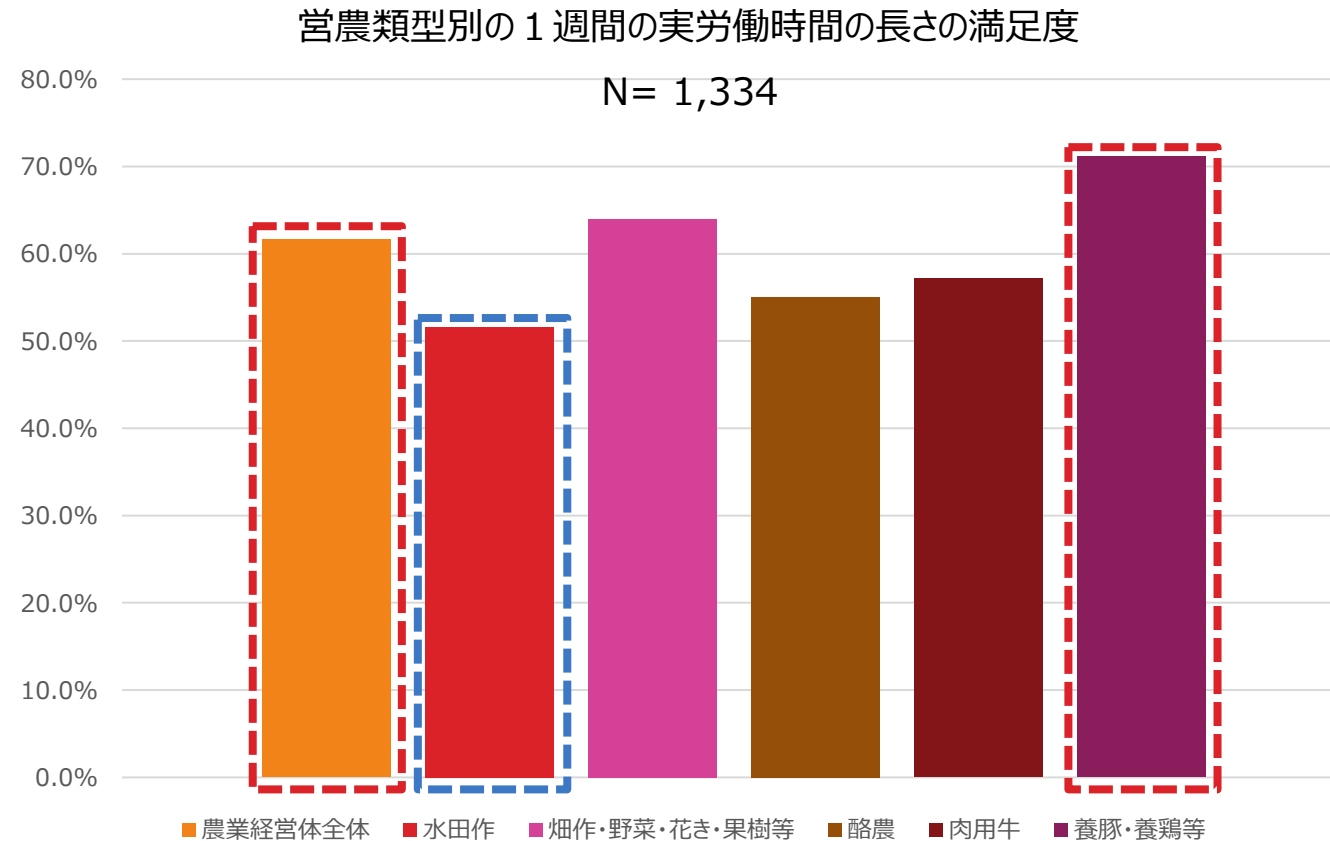


※独立性の検定において、p値が0.031であったため、有意水準5%で満足度と営農類型に関係があると考えられる。

(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析（営農類型別）

・ 1 週間の実労働時間の長さの満足度

農繁期の 1 週間の実労働時間の長さの満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体でみると満足度が6割を超えていた。養豚・養鶏等は他と比較して満足度が高くなっている一方、水田作は満足度が低くなっており、この差は統計的に有意(※)であった。

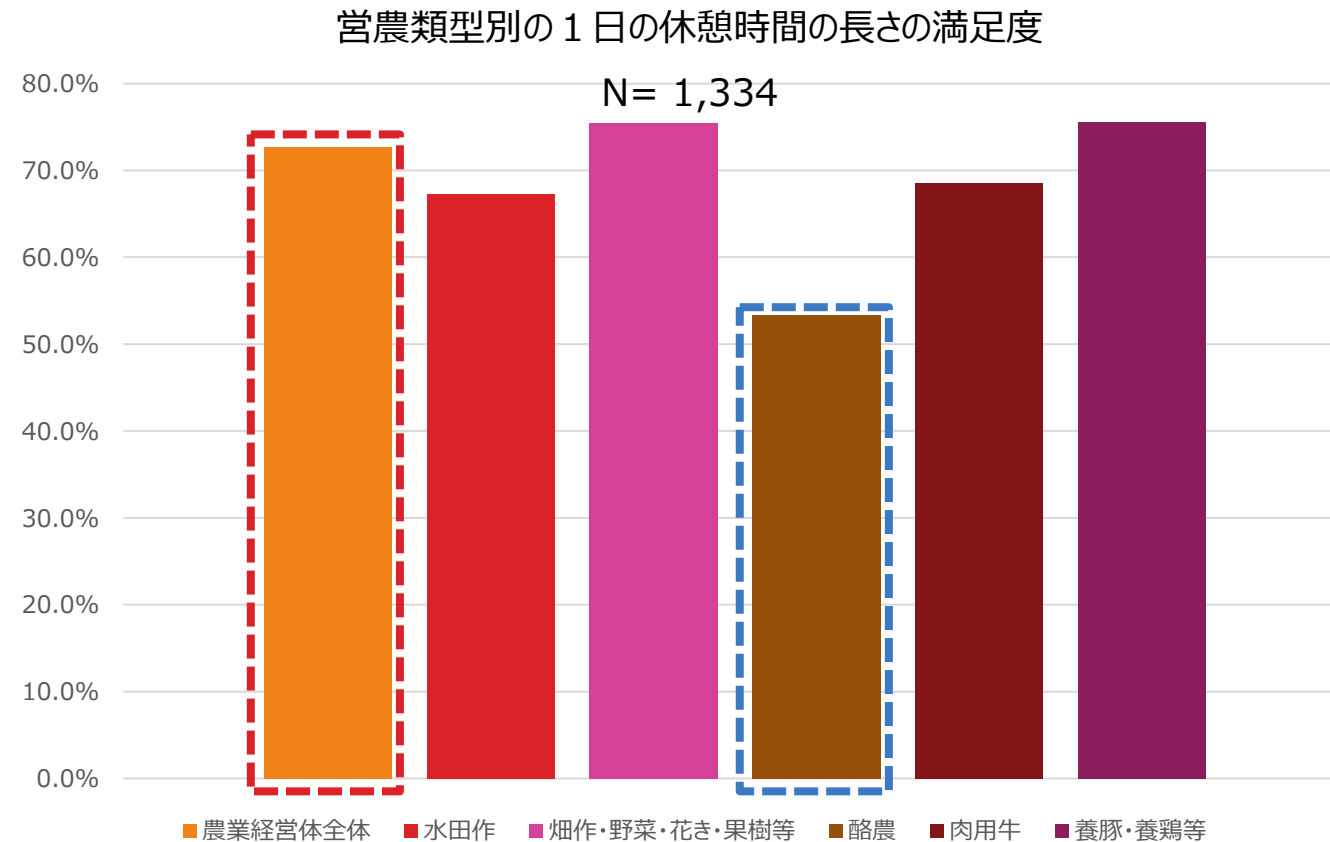


※独立性の検定において、p値が0.011であったため、有意水準5%で満足度と営農類型に関係があると考えられる。

(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (営農類型別)

・ 1日の休憩時間の長さの満足度

農繁期の1日の休憩時間の長さの満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体でみると満足度が7割を超えている一方、酪農は満足度が低くなっており、この差は統計的に有意(※)であった。

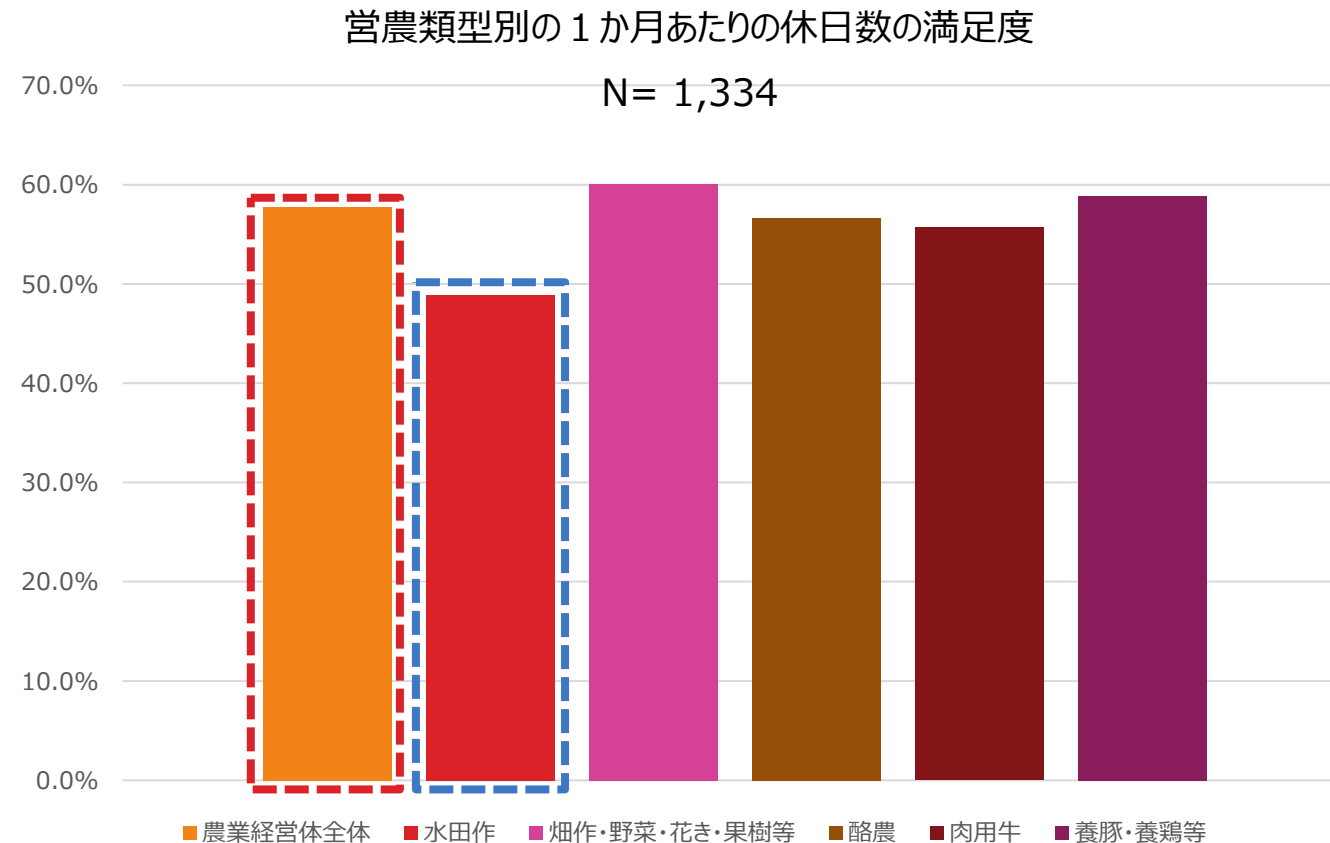


※独立性の検定において、p値が0.005であったため、有意水準5%で満足度と営農類型に関係があると考えられる。

(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析（営農類型別）

・ 1 か月あたりの休日数の満足度

農繁期の1か月あたりの休日数の満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体でみると満足度が5割を超えている一方、水田作は満足度が低くなっているが、統計的な有意差(※)は確認されなかった。

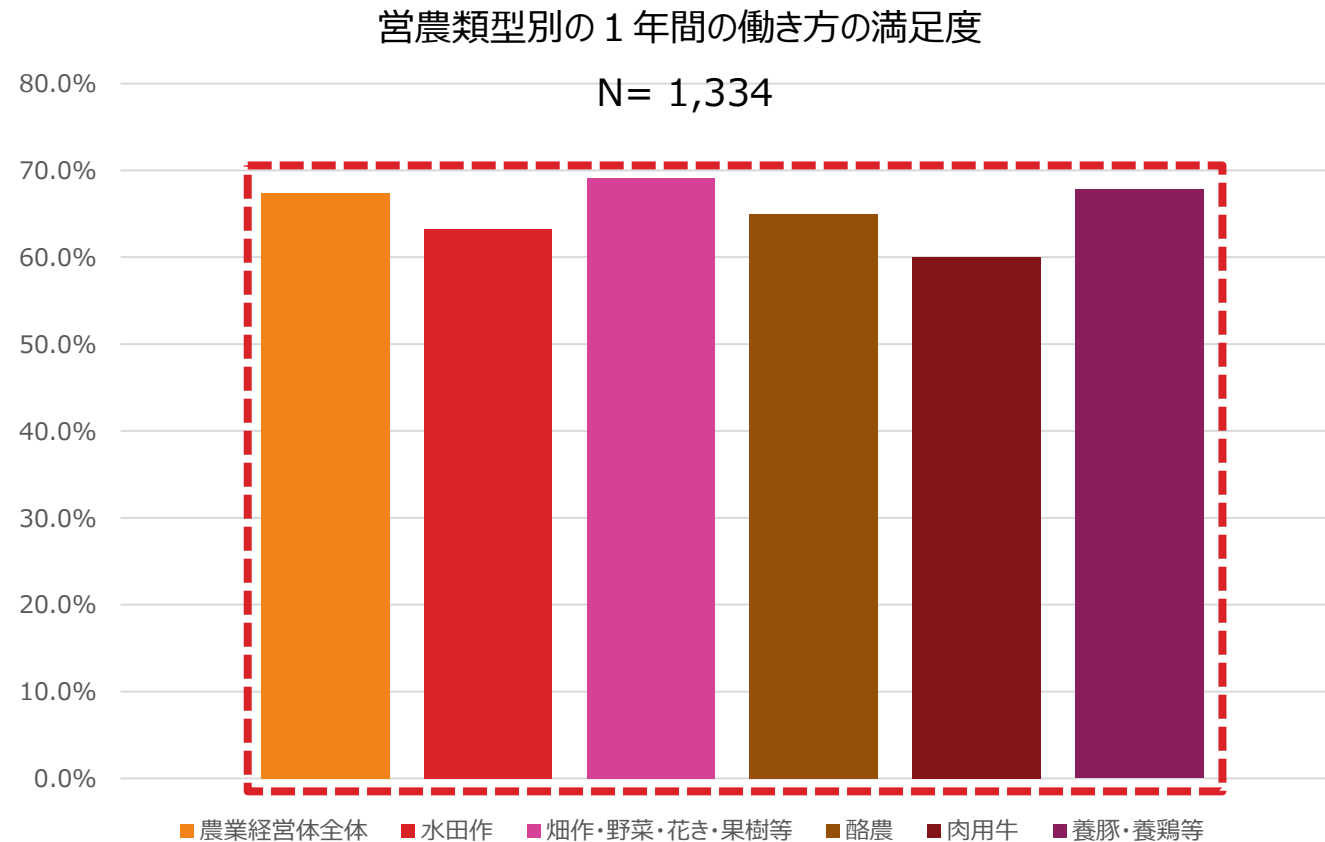


※独立性の検定において、p値が0.122であったため、有意水準5%で満足度と営農類型に関係があるとは言えない。

(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析 (営農類型別)

・ 1年間の働き方の満足度

1年間の働き方の満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体及び全営農類型で満足度が6割を超えており、またその差は統計的に有意(※)ではなかった。



※独立性の検定において、p値が0.182であったため、有意水準5%で満足度と営農類型に関係があるとは言えない。

(1) 被雇用者の労働環境に対する満足度分析のまとめ

【販売金額別】

- 販売金額別に比較すると販売金額が上がるにつれて満足度も上がる傾向であった。

【営農類型別】

- 水田作、酪農では、全設問において全体と比較して満足度が低かった。
特に水田作では1日及び1週間の実労働時間の長さに対する満足度が低く、酪農では1日の実労働時間及び休憩時間の長さに対する満足度が低かった。
- 養豚・養鶏等では、ほとんどの設問で全体と比較して満足度が高く、特に1日及び1週間の実労働時間の長さに対する満足度が高かった。
- 1年間の働き方については全営農類型で6割を超える満足度であった。

(2) 経営体の労働環境改善に関する分析 (販売金額別)

販売規模別に経営体の労働環境改善に対する考え方を把握する。

※ ただし、傾向を見る上で、回答数50人未満の区間(灰色部分)は評価から除外。

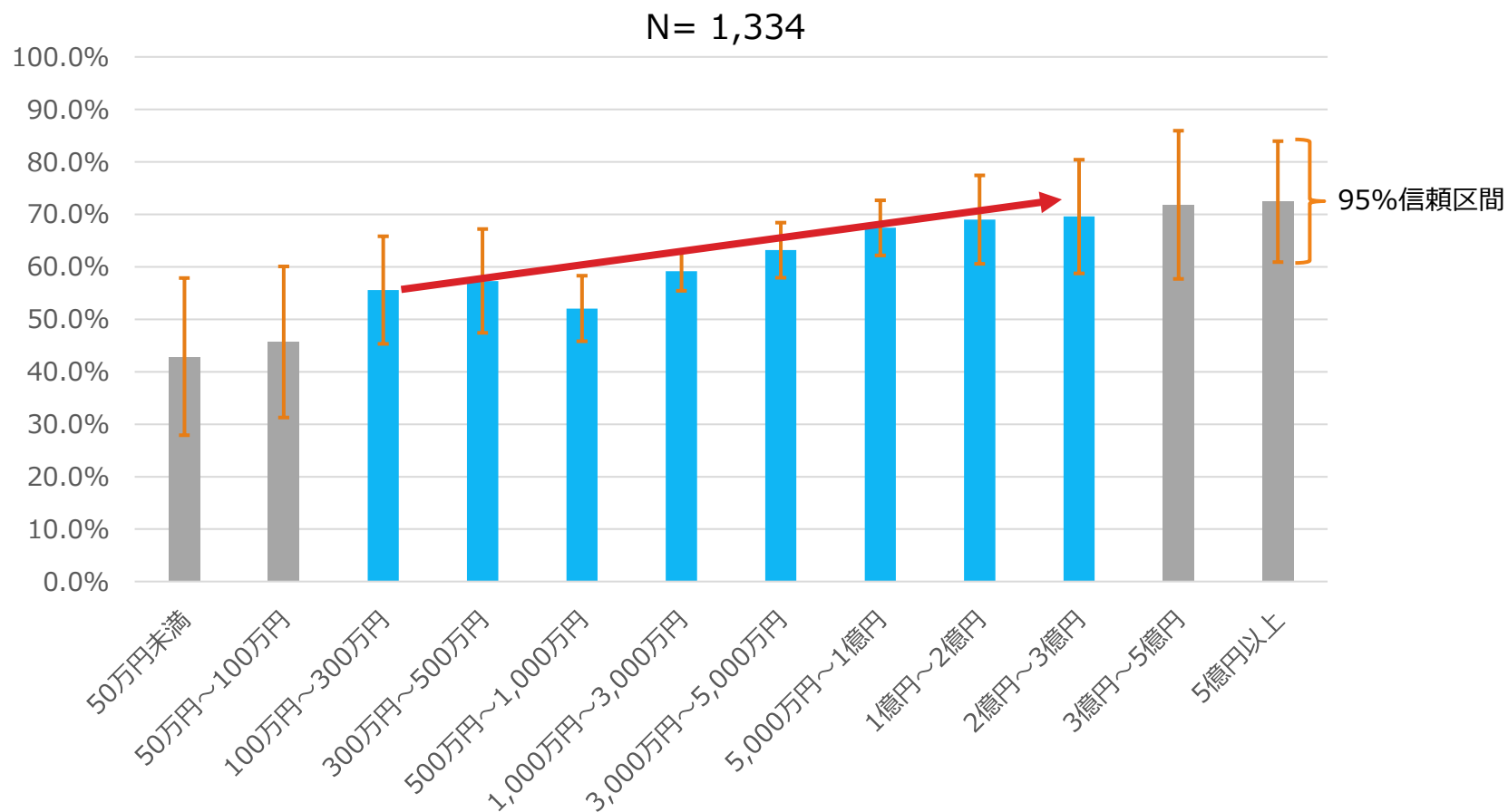
4.分析結果

(2) 経営体の労働環境改善に関する分析（販売金額別）

・ 労働環境を改善する考え

経営体が労働環境を改善する必要と考える割合を販売金額別に比較すると、販売金額が上がるにつれて改善する必要があると回答する割合も上がる傾向である。

販売金額別の労働環境を改善する必要と考える割合



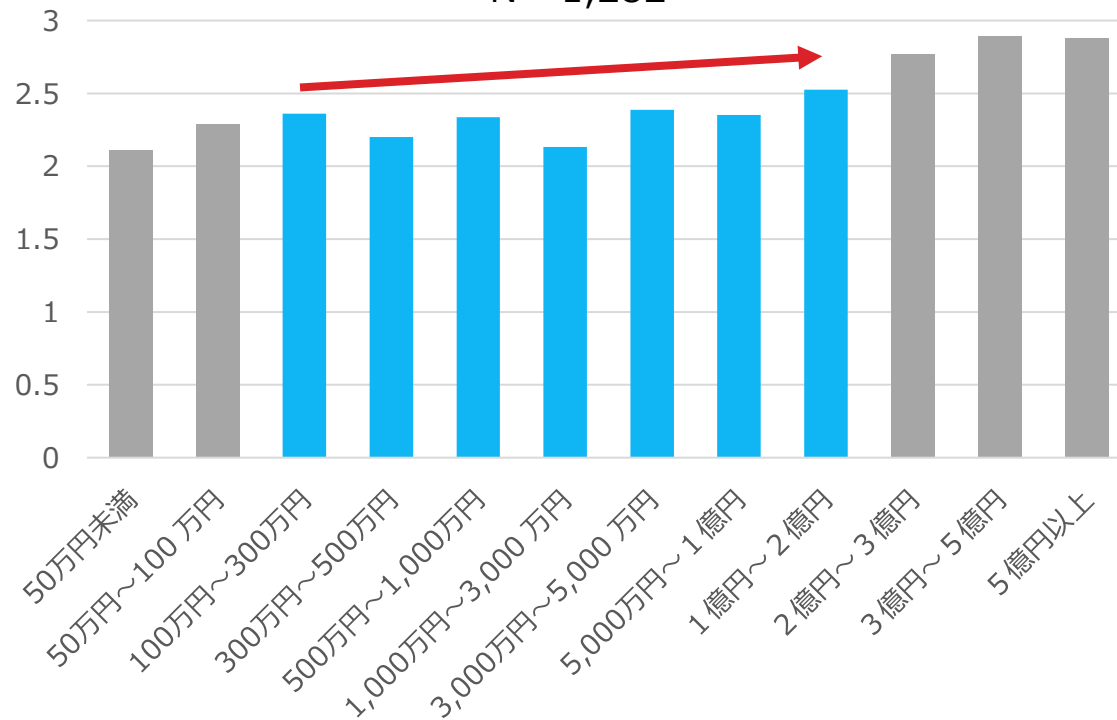
(2) 経営体の労働環境改善に関する分析（販売金額別）

・ 経営体が労働環境で改善が必要だと思う点（1）

経営体が労働環境で改善が必要だと思う点を販売金額別に比較すると、「賃金の上昇」、「休日の増加」は販売金額が上がるにつれて必要と思う割合も上がる傾向である。

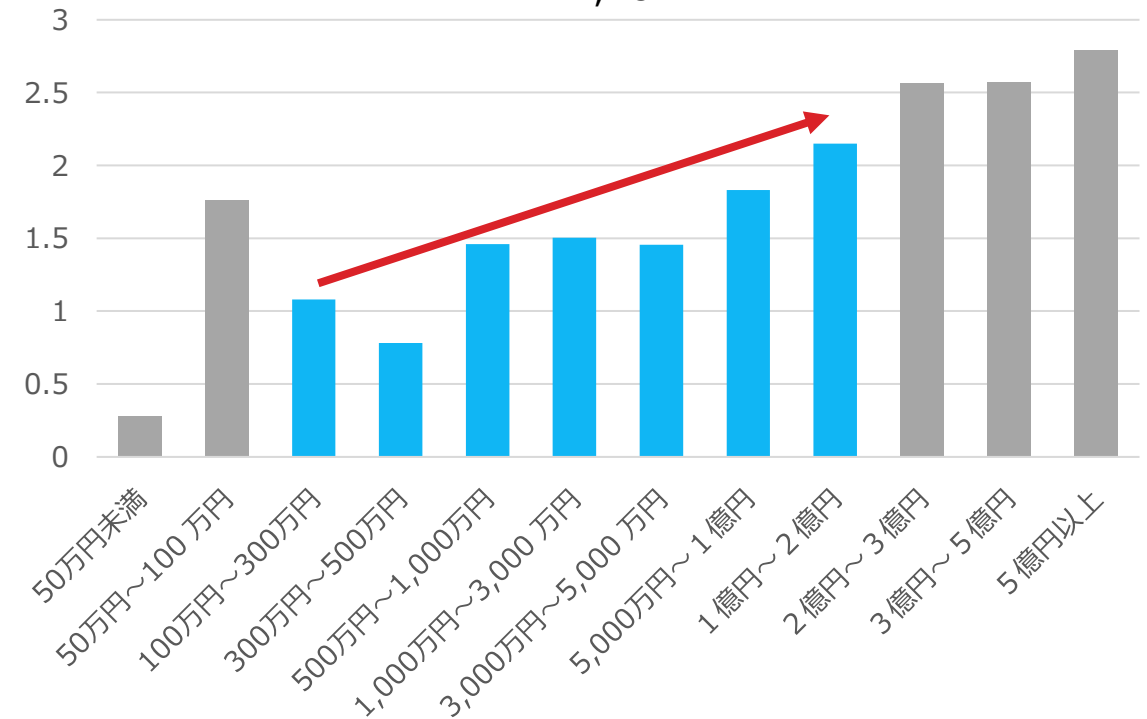
販売金額別の賃金の上昇が必要と思う割合

N = 1,282



販売金額別の休日の増加が必要と思う割合

N = 1,282



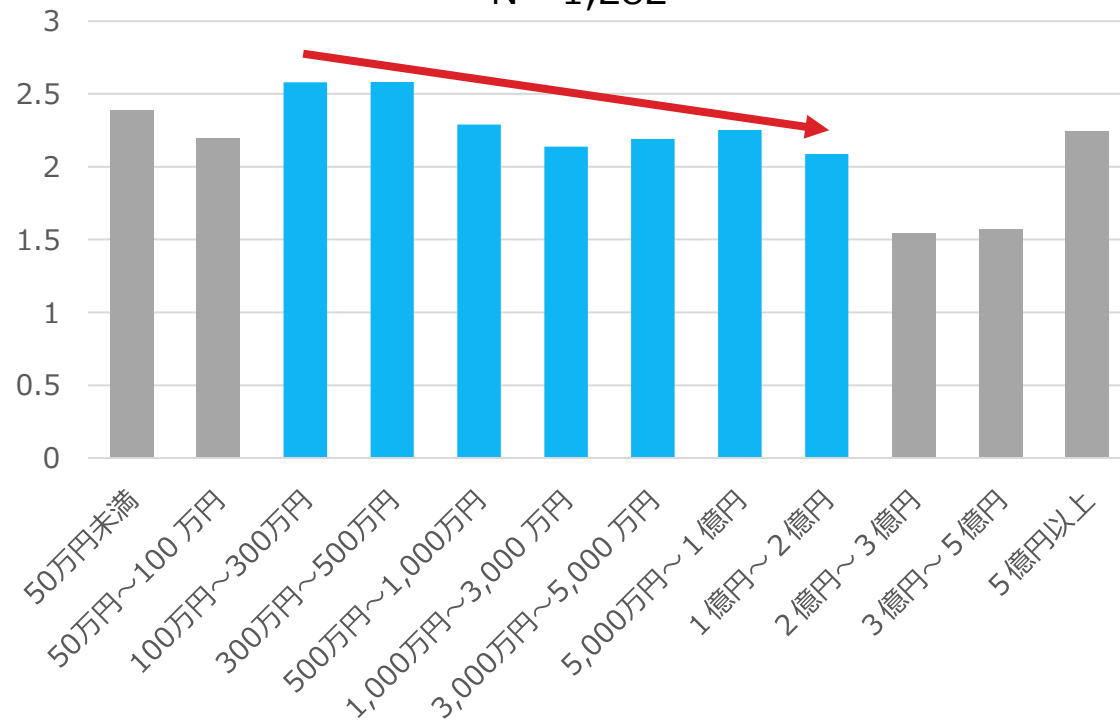
※ データは、農業経営体の労働環境で改善が必要だと思う点の1位～5位を点数化（1位は5点、2位は4点、3位は3点、4位は2点、5位は1点）し、合計値を回答者数で割ったポイントを使用。

(2) 経営体の労働環境改善に関する分析 (販売金額別)

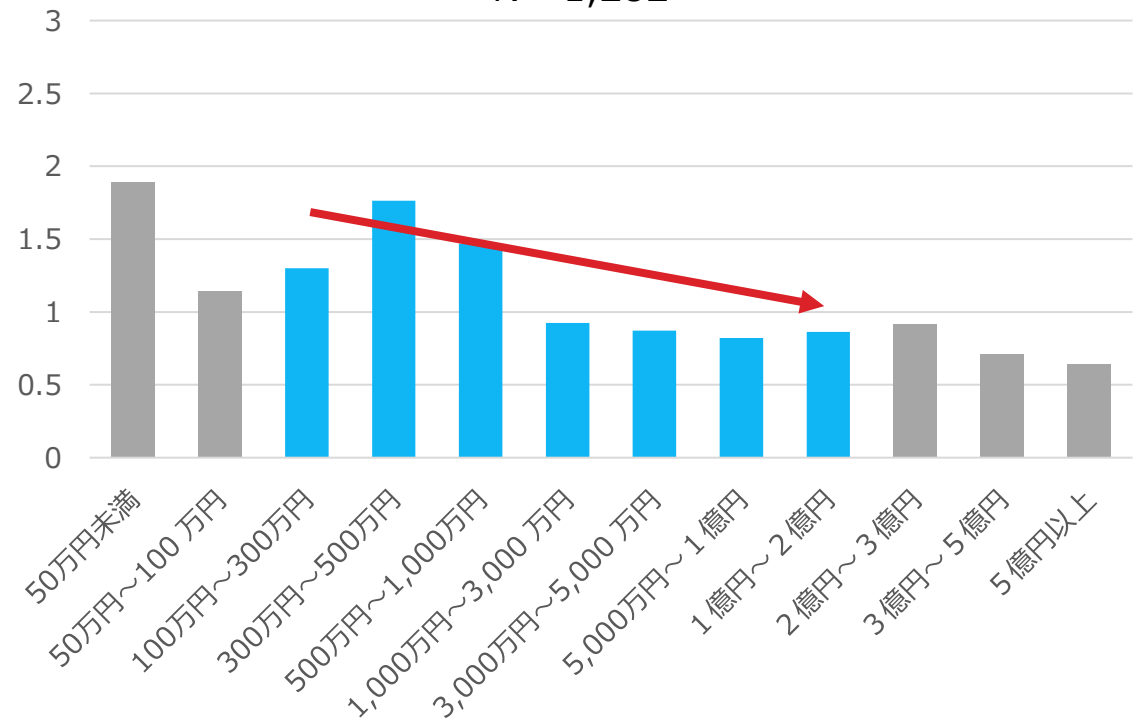
・ 経営体が労働環境で改善が必要だと思う点 (2)

経営体が労働環境で改善が必要だと思う点を販売金額別に比較すると、「農業機械等の導入による作業負荷軽減」、「農業技術の習得の支援」は、販売金額が上がるにつれて必要と思う割合は下がる傾向である。

販売金額別の農業機械等の導入による作業負荷軽減が
必要と思う割合
N= 1,282



販売金額別の農業技術の習得の支援が
必要と思う割合
N= 1,282



※ データは、農業経営体の労働環境で改善が必要だと思う点の1位～5位を点数化（1位は5点、2位は4点、3位は3点、4位は2点、5位は1点）し、合計値を回答者数で割ったポイントを使用。

(2) 経営体の労働環境改善に関する分析のまとめ

【営農類型別】

- 販売金額が上がるにつれて労働環境を改善する必要があると回答する割合が高くなっていた。
- 「賃金の上昇」、「休日増加」は販売金額が上がるにつれて改善が必要と思う割合も高くなっていたが、「農業機械等の導入による作業負担軽減」、「農業技術の習得の支援」は、逆に販売金額が上がるにつれて改善が必要と思う割合は低くなっていた。

（３）労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握 （営農類型別）

営農類型別に労働環境や労働時間等の状況及びそれに対する被雇用者の満足度を把握する。

※ データは経営体と被雇用者の双方から回答があったデータを利用し、満足度は各項目の「非常に満足である」「やや満足である」の割合で評価。ただし、回答数が5以下の場合は評価から除外。

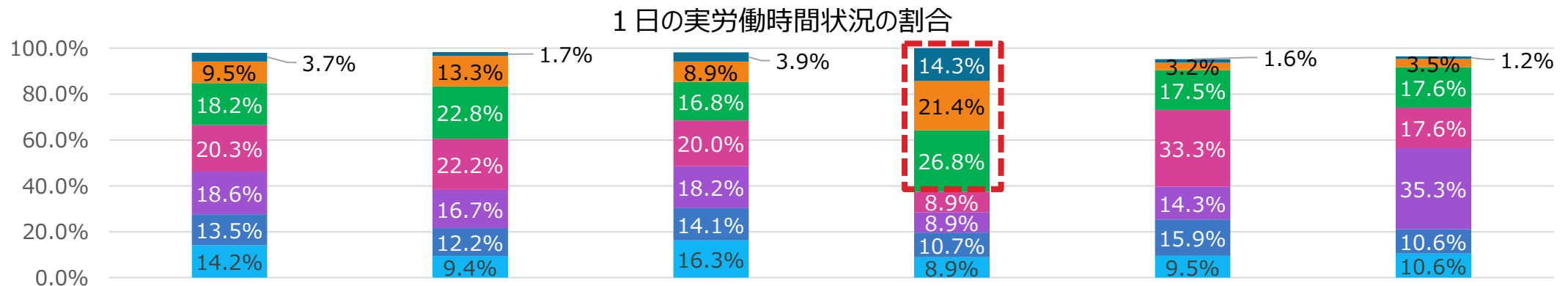
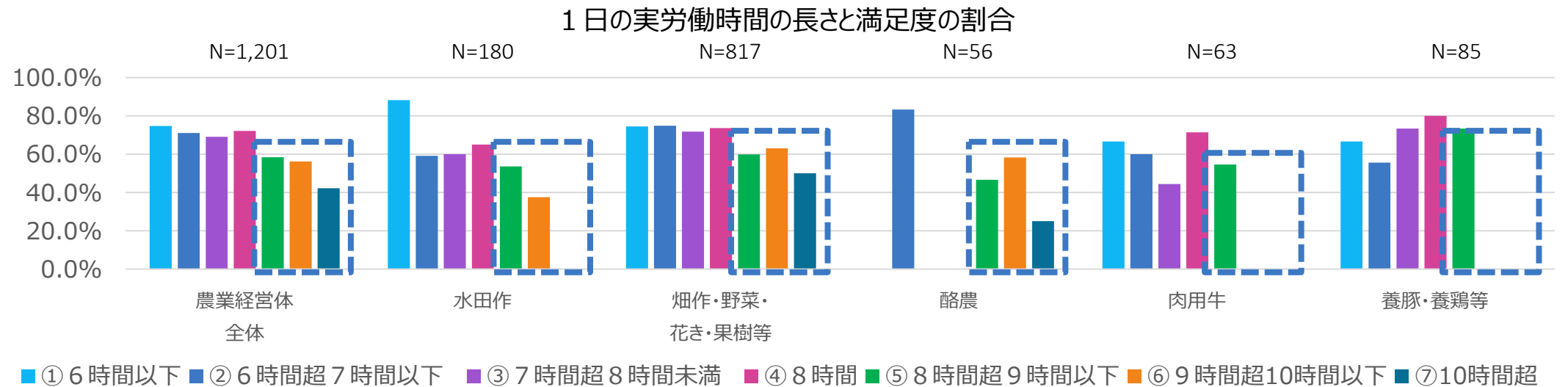
4.分析結果

（３）労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握（営農類型別）

・ 1 日の実労働時間の長さと満足度

農繁期の 1 日の実労働時間の長さと満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体で 8 時間を超えると満足度が下がる傾向である。

1 日の実労働時間状況の割合では、酪農は他と比較して 8 時間を超える経営体の割合が高い。

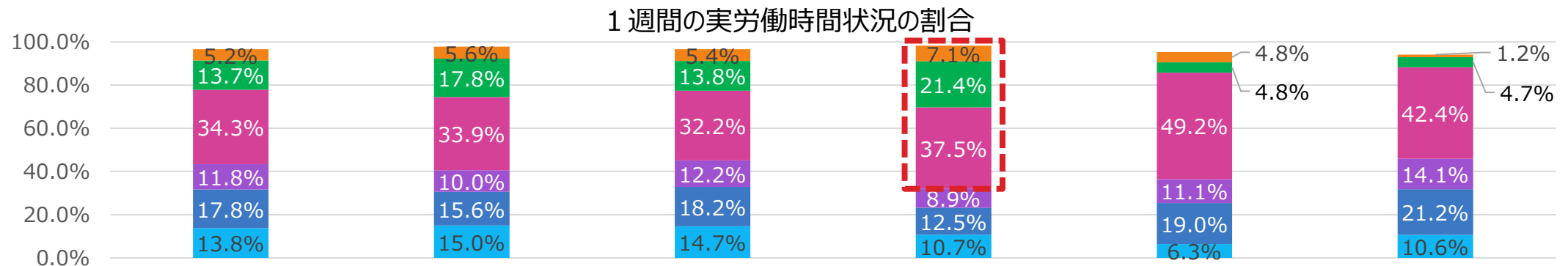
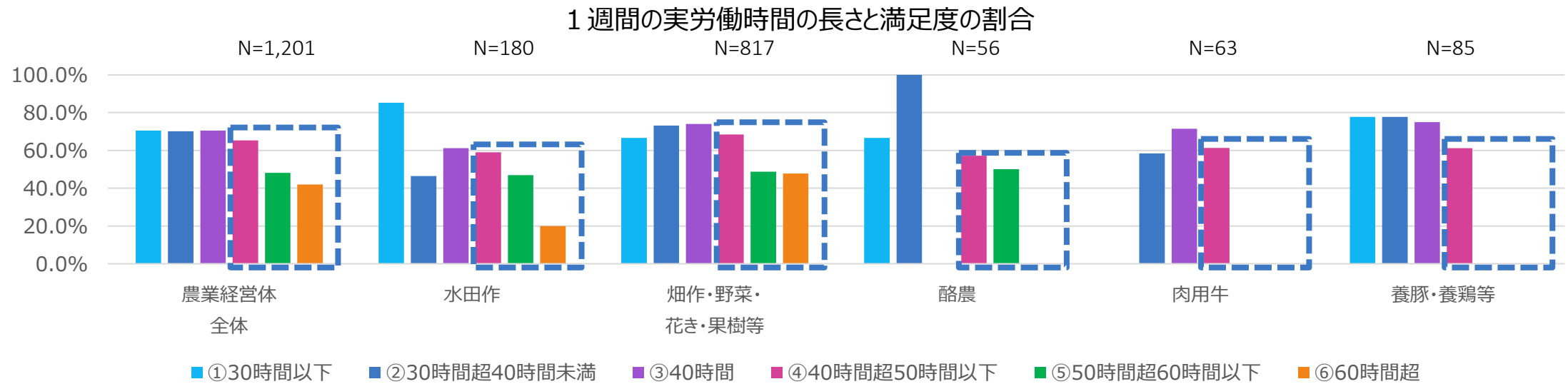


(3) 労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握（営農類型別）

・ 1 週間の実労働時間の長さと満足度

農繁期の 1 週間の実労働時間の長さと満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体で40時間を超えると満足度が下がる傾向である。

1 週間の実労働時間状況の割合では、酪農は他と比較して40時間を超える経営体の割合が高い。

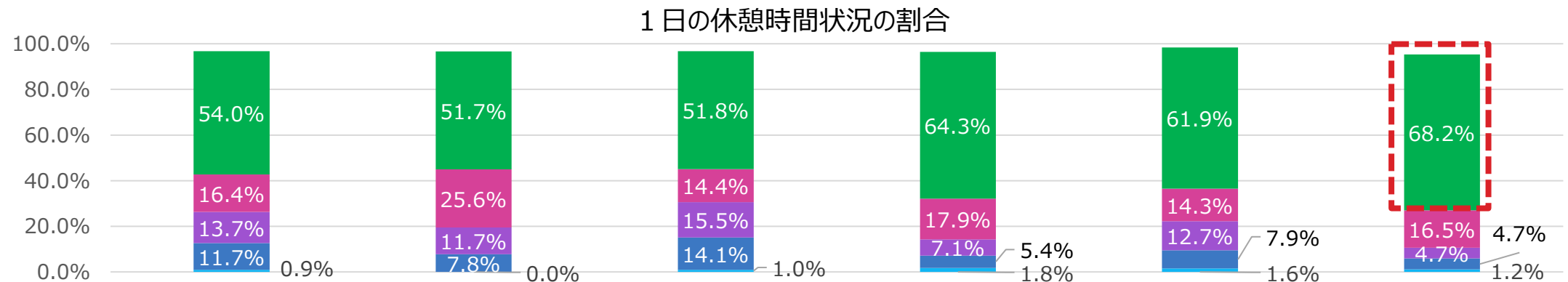
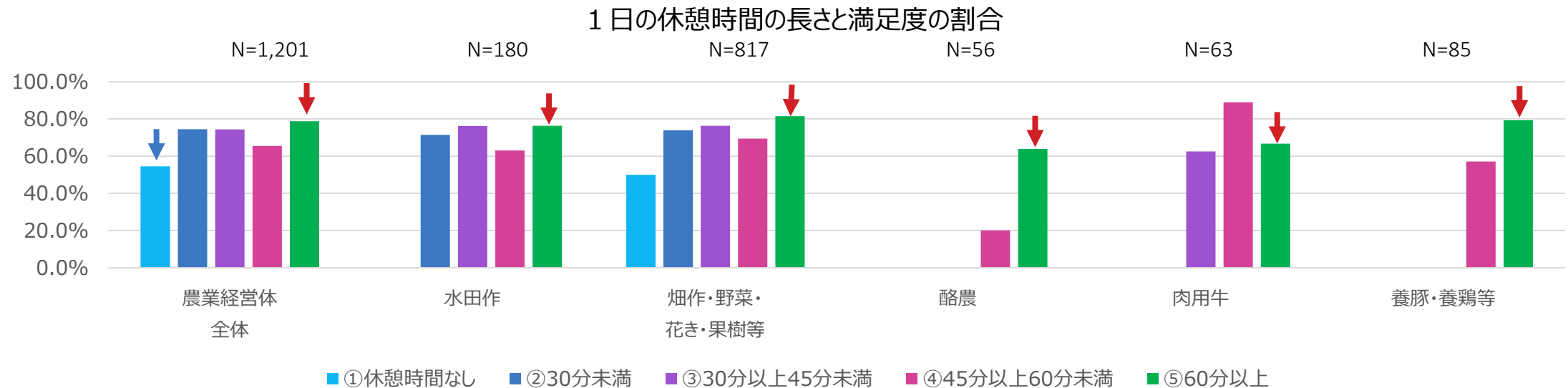


(3) 労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握（営農類型別）

・ 1日の休憩時間の長さと満足度

農繁期の1日の休憩時間の長さと満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体で60分以上だと満足度が上がり、休憩時間がないと満足度が下がる傾向である。

1日の休憩時間状況の割合では、養豚・養鶏等は他と比較して60分以上の経営体の割合が高い。

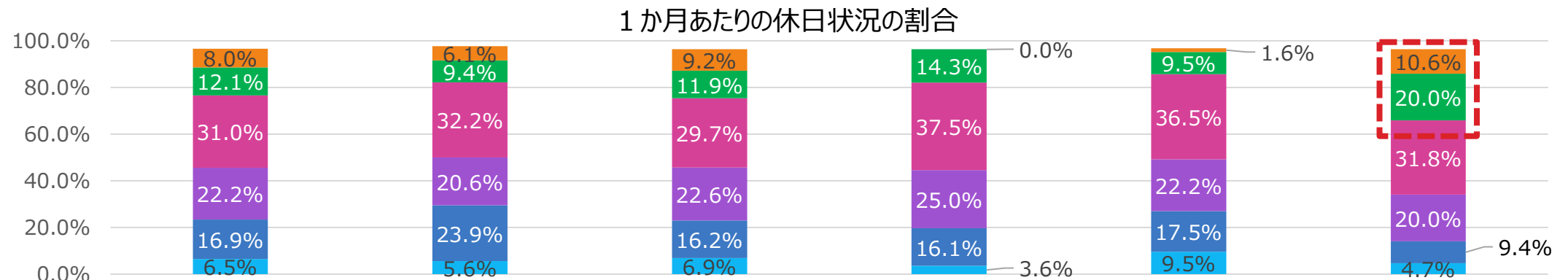
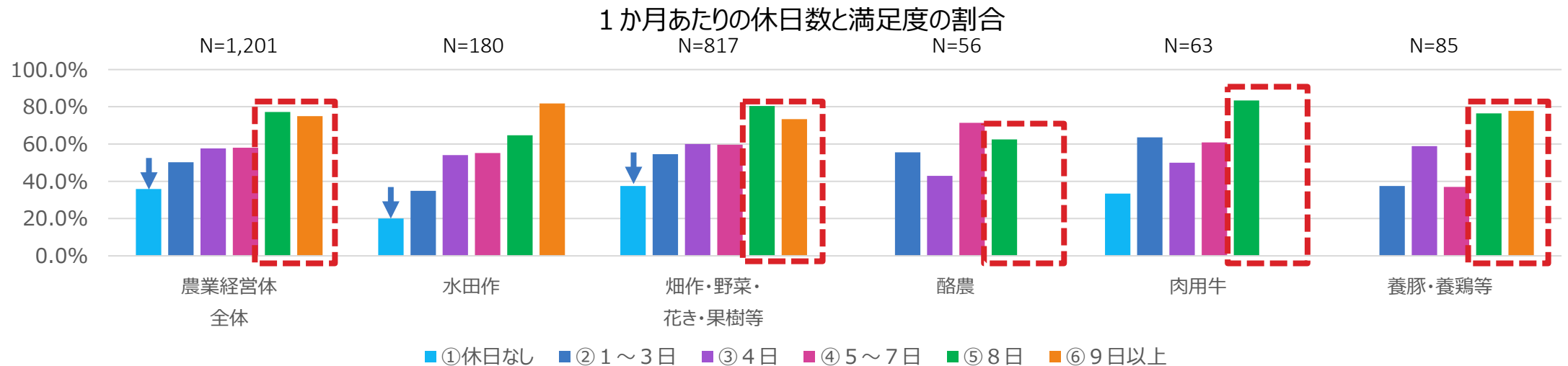


（３）労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握（営農類型別）

・ 1 か月あたりの休日数と満足度

農繁期の 1 か月あたりの休日数と満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体で 8 日以上だと満足度が上がり、休日がないと満足度が下がる傾向である。

1 か月あたりの休日状況の割合では、養豚・養鶏等は他と比較して休日数が 8 日以上の経営体の割合が高い。

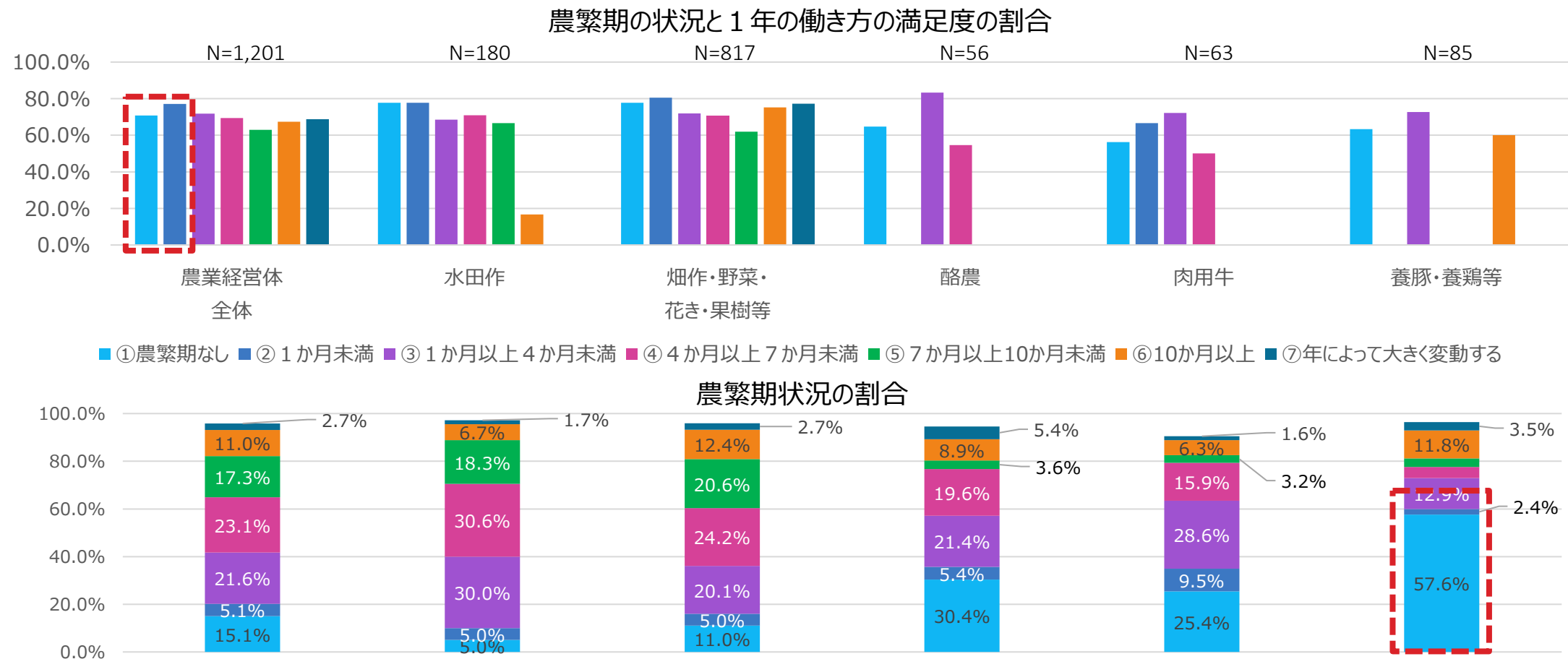


(3) 労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握（営農類型別）

・ 農繁期の状況と1年の働き方の満足度

農繁期の状況と1年の働き方の満足度を営農類型別に比較すると、農業経営体全体で農繁期が短い方が満足度が上がる傾向である。

農繁期状況の割合では、養豚・養鶏等は他と比較して農繁期なしの経営体の割合が高い。

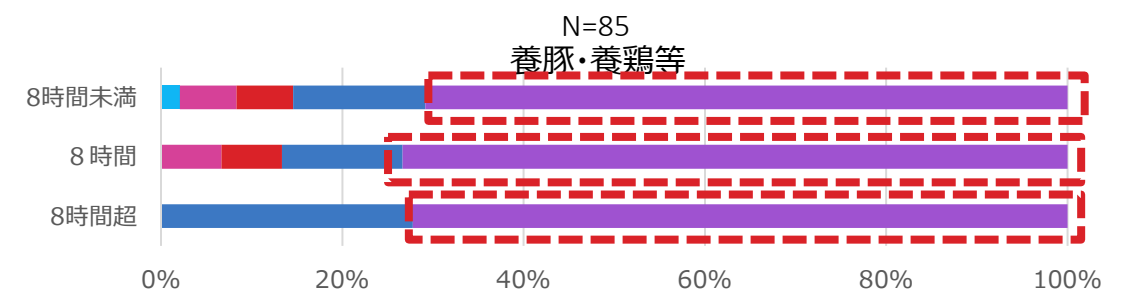
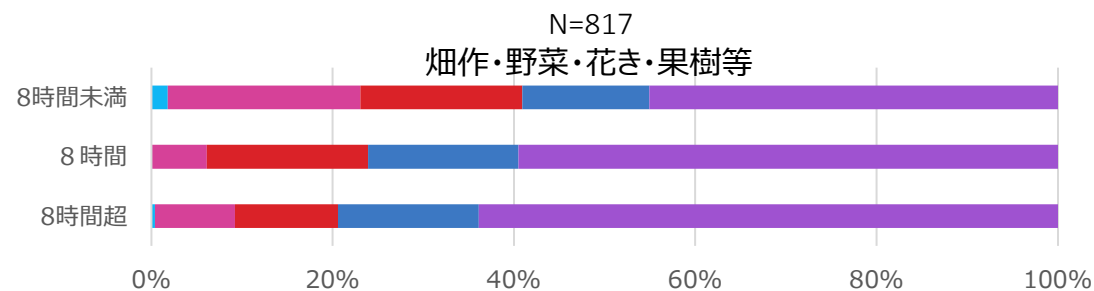
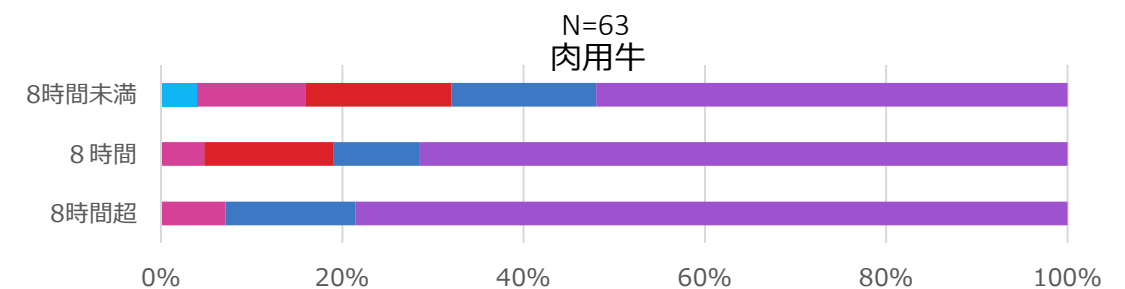
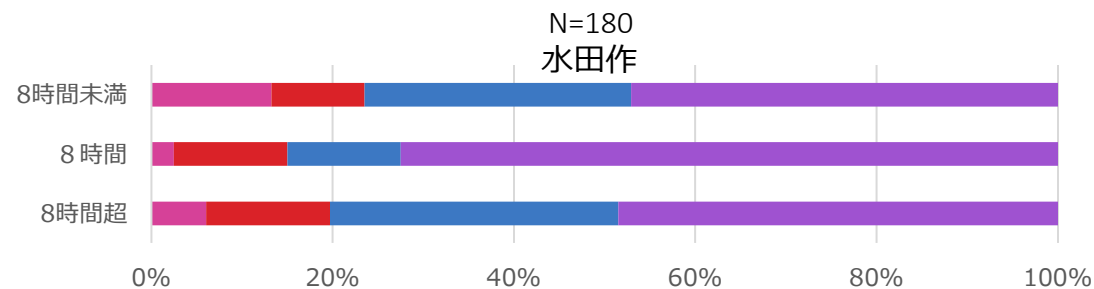
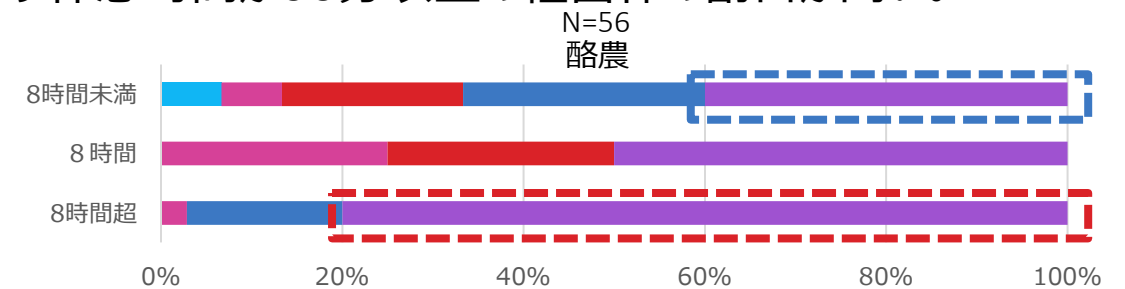
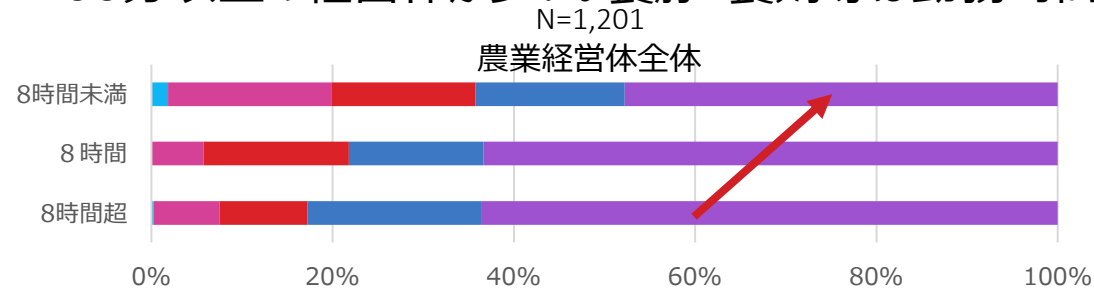


(3) 労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握（営農類型別）

・ 1日の勤務時間と休憩時間

農繁期の1日の勤務時間と休憩時間を営農類型別に比較すると、農業経営体全体で勤務時間が8時間未満だと、休憩時間が60分以上の経営体は少ない傾向である。

特に、酪農は勤務時間が8時間未満だと休憩時間が60分以上の経営体が少ない一方、8時間を超えると休憩時間が60分以上の経営体が多い。養豚・養鶏等は勤務時間に関わらず休憩時間が60分以上の経営体の割合が高い。



(3) 労働環境の状況と被雇用者の満足度の特徴把握のまとめ

【実労働時間の長さ】

- 実労働時間の長さについては、1日で8時間、1週間で40時間を超えると満足度が下がっていた。
- また、酪農は他と比較して1日で8時間、1週間で40時間を超える経営体の割合が高かった。

【休憩時間・休日数】

- 休憩時間及び休日数については、1日の休憩時間が60分以上だと満足度が高く、1か月あたりの休日数が8日以上だと満足度が高かった。
- また、養豚・養鶏等は他と比較して1日の休憩時間が60分以上、1か月あたりの休日数が8日以上の経営体の割合が高かった。

【農繁期】

- 農繁期については、短い方が満足度が高い傾向であり、養豚・養鶏等は他と比較して農繁期なしの経営体の割合が高かった。